



研究会・研修会等への  
報告者・講師の派遣  
(平成25年10月～12月)

○平成25年度農業技術研究会  
主催 日本農業研究所  
とき 平成25年10月9日  
テーマ 北海道農業発達史の  
刊行を終えて  
講演 太田原 高昭  
(当研究所・顧問)

○憲法問題研究会  
主催 札幌市山の手九条の会  
とき 平成25年10月26日  
テーマ TPPをめぐる最近の  
情勢  
講演 太田原 高昭  
(当研究所・顧問)

○HIECO設立35周年記念国際  
経済シンポジウム  
主催 HIECO(北海道国  
際交流・協力総合セン  
ター)  
とき 平成25年10月28日  
テーマ 新時代を迎えるモンゴ  
ル農牧業  
モデレータ 黒河 功  
(当研究所・所長)

○「ロシア極東研セミナー」  
主催 ロシア極東研(NPO  
法人)  
とき 平成25年10月29日  
テーマ 知られざる旧ソ連中央  
アジア諸国の素顔 |  
タジキスタンでのJI  
CAの農業調査から  
講演 中村 正士  
(当研究所・特別研究員)

○「JICA中央アジア農民組織  
化(B)コース」  
主催 JICA北海道 札幌  
とき 平成25年11月1日  
テーマ 農協の営農指導事業  
講演 中村 正士  
(当研究所・特別研究員)

○平成25年度常勤役員研修会  
主催 JAカレッジ  
とき 平成25年11月7日  
テーマ 農業情勢と農協の運営  
方策  
講演 太田原 高昭  
(当研究所・顧問)

○青森県中泊町農業問題懇話会  
主催 株式会社社長幸  
とき 平成25年11月9日  
テーマ 農業情勢と農協の運営  
方策  
講演 太田原 高昭  
(当研究所・顧問)

○第18回全道報徳交流集会  
主催 北海道報徳社  
とき 平成25年11月15日  
テーマ 北海道農業の発展と報  
徳  
講演 太田原 高昭  
(当研究所・顧問)

○「JAグループ北海道農業経営  
フォーラム」  
主催 JA北海道信連  
とき 平成25年11月18日  
テーマ 今こそ考えるこれから

の農業経営  
コーディネイター 黒河 功  
(当研究所・所長)

○青法協学習会  
主催 札幌青年法律家協会  
とき 平成25年11月27日  
テーマ 交渉参加後のTPP問  
題  
講演 太田原 高昭  
(当研究所・顧問)

○「平成25年度日本育種学会・日  
本作物学会北海道談話会」  
主催 日本育種学会・日本作  
物学会  
とき 平成25年12月7日  
テーマ 農業における圃場実験  
の統合解析に関する研  
究  
2段分割法実験の統合  
解析法について  
講演 鷹田 秀一  
(当研究所・次長)

○「平成25年度空知地域6次産業  
化推進検討会」  
主催 空知地域食クラスター  
連携体、空知産農産物

## DATA FILE

### 関連事項 / DATA

札幌学院大学  
〒069-8555  
江別市文京台11番地  
☎ 011(386)8111  
FAX 011(386)8113

酪農学園大学  
〒069-8501  
江別市文京台緑町582  
☎ 011(386)1111  
FAX 011(386)1214

雪印メグミルク株式会社  
酪農総合研究所  
〒065-0043  
札幌市東区苗穂町6丁目1番1号  
☎ 011(704)2131  
FAX 011(704)2417

長沼町役場  
〒069-1392  
夕張郡長沼町中央北1丁目1番1号  
☎ 0123(88)2111  
FAX 0123(88)0888

ながぬま農業協同組合  
〒069-1393  
夕張郡長沼町銀座北1丁目5番19号  
☎ 0123(88)2226  
FAX 0123(88)4113

一般社団法人 北海道地域農業研究所  
〒062-0041  
札幌市豊平区福住1条4丁目13番13号  
☎ 011(859)6010  
FAX 011(852)6663  
HP: <http://www.chiikinouken.or.jp>

ブランド化推進会議、  
道空知総合振興局農務  
課  
●十二月三日農業総合研修会を  
開催した  
道は高品質な本道農畜産物や  
寒冷地技術等の新たな需要先と  
して「ロシアサハリン州との友好・  
経済交流」に大きな期待を  
持っている。このような中で札幌  
学院大学小内教授を招いて  
「極東地域の農業と食生活」と  
題して講演をいただいた。現地の  
農業の状況、流通の変化、  
人々の暮らしと食生活、親日的

### ◆ 編集後記 ◆

など、庶民を中心に置いた話が  
印象的だった。また、ロシアは  
「本気で交流を望んでいる」と  
何度も強調されていた。将来の  
一步に向けて新しい舵取りが必  
要だ

●二五年産の作柄は雪解け遅れ  
春耕期の低温、長雨と心配した  
が全道的に平年作を確保するこ  
とが出来た。大きい気候変動が  
当たり前の時代になってきた。

●最近の企業不祥事は列挙に暇  
がない。カネボウ、J R北海道  
みずほ銀行、食材偽装、ヤマト

運輸など。「真摯さなくして組  
織なし」客を馬鹿にするな!

●政府はコメの直接支払交付金  
の減額や飼料用米への支援強化  
多面的機能支払いの創設などを  
柱とした経営所得安定対策とコ  
メ政策の見直し内容を決めた。

飼料用米の生産から流通、消費  
まで課題が多く、生産現場の不  
安は払拭できない。しかし、主  
食の生産を自由競争にしてい  
のだろうか。

●畑作物の直接支払交付金の数  
量払交付単価が決まった。特に  
てん菜の基準糖度の引き下げと  
数量払い単価の引き上げで、作  
付面積の歯止めをしたい。

●T P P 交渉は目標の年内妥結  
を見送った。情報の開示をすす  
め、「妥協ありき」の交渉で  
あつてはならない。日本の「強  
い交渉力」が問われるときであ  
る。

「待った」が最善の解決策に  
なることもあるのでは。

(小林 久人)